

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第56回北九州地区小児科医会総会

日時：2020年1月19日（日）13:30～

場所：リーガロイヤルホテル小倉

特別講演：「発達障害のある子どもと楽しさを共有できる診療を求めて」

演者：久留米大学医学部小児科学講座

主任教授 山下裕史朗 先生

第563回北九州地区小児科医会2月例会

日時：2020年2月20日（木）19:30～20:30

場所：小倉医師会館 4階

演題：「本格化する”子どもの死”の検証制度と医療機関の準備」

演者：北九州市立八幡病院

小児救急・小児総合医療センター 神菌 淳司 先生

産業医科大学カンファランス・セミナー

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：2020年1月20日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題：ITP治療の現状

～小児難治性ITP治療ガイド2019をふまえて～

演者：産業医科大学小児科 押田 康一 先生、伊藤 琢磨 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2020年1月16日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題：小児食物アレルギーの対応と予防

演者：山口大学小児科教授 長谷川 俊史 先生

その他講演会などのご案内

第427回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2020年1月23日（木）19:00～

場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター

演題1：「重篤な経過をたどった急性ロタウイルス脳症の4歳女児例」

演者：北九州総合病院 小児科 千手 絢子 先生

演題2：「ロタウイルスワクチンの効果について

～胃腸炎関連けいれん入院症例の変化～」

演者：北九州総合病院 小児科 川瀬 真弓 先生

第428回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2020年2月27日（木）19:00～

場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター

演題1：「当科外来で百日咳の診断に至った小児例」

演者：九州労災病院 小児科 中村 慶司 先生

演題2：「ALL臍帯血移植治療13年経過後に、様々な内分泌異常を呈しているCCSの一例」

演者：九州労災病院 小児科 島本 太郎 先生

令和元年度園児保健研修会

日時：2020年2月17日（月）19:00～

場所：市立商工貿易会館 2階 「多目的ホール」

演題1：「園での食物アレルギー」

演者：小倉きふね病院 アレルギー科 岡部 貴裕 先生

第58回北九州小児血液・腫瘍懇話会

日時：2020年2月28日（木）19:00～

場所：リーガロイヤルホテル小倉 4階 「エメラルド」

一般演題：未定

特別講演：「がん免疫療法の将来像：

遺伝子改変T細胞療法の現状と課題」

演者：山口大学大学院医学系研究科

免疫学講座 教授 玉田 耕治 先生

保険診療メモ

小児抗菌薬適正使用支援加算について

令和元年九州小児科医会審査員連絡協議会での議論を踏まえて

2015年5月に開催されたWHOの第68回世界保健総会 (World Health Assembly) で、薬剤耐性 (AMR) に関するグローバル・アクション・プランが採択され、加盟各国は2年以内に薬剤耐性に関する国家行動計画を策定することを求められました。

これを受けてわが国でも、2016年4月に薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン (2016-2020)が策定・公表され、中でも、抗微生物薬の適正使用は、薬剤耐性対策の最も重要な分野として、日常の臨床で、医療従事者や患者さんを含む医療にかかわるすべての人が対応すべきこととされています。

このような流れを受けて、2018年4月の診療報酬改定で、小児科外来での抗菌薬の適正使用に関する患者・家族の理解向上に資する診療を評価する点数として、「小児科外来診療料」と「小児かかりつけ診療料」に「小児抗菌薬適正使用支援加算」(80点)が新設されました。

この加算は、ご承知の通り、小児科専門の医師が、急性気道感染症または急性下痢症で受診した基礎疾患のない患者で、初診時に、診察の結果、抗菌薬の投与の必要性が認められないため抗菌薬を使用しないものが対象となっています。

しかも、身体所見や検査結果などをもとに、抗菌薬を使用しない理由を説明し、内容を文書で提供した場合に算定できるとされています。

また、同加算を算定する際の施設基準には、AMR対策アクションプランに位置付けられた活動に参加し、または感染症関連の研修会などに定期的に参加していることがあげられていますし、当初、基礎疾患のない学童期以降の患者については、厚生労働省の「抗微生物薬適正使用の手引き」第一版に即した療養上必要な説明および治療を行うことが求められました。

小児科専門医に対して、国民(患者・家族)が、抗菌薬の適正な使用が薬剤耐性 (AMR) の対策にとっても重要であることを理解し、説明と納得の上での医療が受けられるように支援することを評価するための加算であると言い換えることができそうです。

薬剤耐性対策に関する情報や患者・家族へのリーフレット等は、AMR臨床リファレンスセンターの以下のホームページにアクセスすると便利です。

かしこく治して、明日につなぐ～抗菌薬を上手に使ってAMR対策～ (<http://amr.ncgm.go.jp/>)

また、2019年12月5日には、厚生労働省のホームページに「抗微生物薬適正使用の手引き」第二版が公表されました。92ページにもおよぶ力作ですが、第二版では、基礎疾患のない生後3ヵ月以上から学童期末満の「乳幼児編」を加え、小児の急性気道感染症の特徴と分類や小児特有の副作用がある抗菌薬への注意事項などが盛り込まれています。ご一読下さい。 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000573655.pdf>)

すでに1年8ヵ月余りが経過し、抗菌薬の使用抑制に大きく貢献してきているとの報告が散見されますが、適正な抗菌薬の使用を目指していることから、A群β溶連菌感染症、マイコプラズマ等による非定型肺炎、百日咳や細菌性副鼻腔炎など抗菌薬による治療を要する小児の細菌感染症を見逃さないように、適正な検査の実施等をも考慮しながら、的確な診断と治療が求められると思われまます。

さて、先日、佐賀で開催された令和元年九州小児科医会審査員連絡協議会では、同加算の対象外(基礎疾患)とされている気管支喘息と関連する傷病名(気管支喘息発作、喘息「性」気管支炎、喘息「様」気管支炎など)について、同加算を認めるかどうかの検討が行われました。

九州・沖縄の各県によって、詳細な点で審査基準の差がありましたが、今回以下のように、ほぼ統一して審査する方向でまとまりましたので、ご報告いたします。

- ① 気管支炎・・・認める
- ② 気管支喘息・・・認めない
- ③ 喘息「性」気管支炎または喘息「様」気管支炎・・・認める
上記②と区別するため、ロイコトリエン受容体拮抗薬がアレルギー性鼻炎に対する場合は、傷病名を併記し、その旨を明記すること
- ④ 翌日以降に抗菌剤を処方する例・・・必要性など詳記があれば考慮、但し、傾向的であれば返戻のうえ指導の対象になる
- ⑤ 翌日以降にインフルエンザと診断した(または疑った)例・・・認める
- ⑥ ムンプス・水痘・アデノなどに上気道炎を合併した症例・・・認める
- ⑦ 気管支喘息発作・・・認めない

これは、初・再診の判断のとき、喘息発作を一発作一疾病と考えて初診を認めるもので、抗菌薬適正使用支援加算の対象にはならない。

(福岡県小児科審査員協議会)

役員会報告（1月8日：水曜日）

協議事項・報告事項

★貝塚博美先生（門司）が12月21日にご逝去されました。
（享年67歳）謹んでご冥福をお祈りします。

協議事項・報告事項

協議事項

① 第56回北九州地区小児科医会総会(令和2年1月19日)

特別講演：【発達障害のある子どもと楽しさを共有
できる診療をめざして】

久留米大学小児科主任教授 山下裕史朗先生

専門医更新単位の申請を行ない、承認されています。

（途中入場、退席の場合は専門医更新単位は配布
できませんので、ご注意ください。）

②福岡地区小児科医会発行の発達障害マニュアルの配布

各医療機関に1部ずつの配布としました。

各地区ごとでの配布を行う予定です。

③将来構想検討委員会

1月に各地区理事や次期執行部の案を確認しました。

委員会報告

1. 学術委員会報告：神菌淳司

2月はカンファランス案内を参照ください。

3月は小児神経懇話会との合同例会を検討していますが、
日程はまだ未定となっています。